〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

**XXXXXXX XXX XXXX XXXX XXXXX: XX XXX XXXX XXXXXX XXX**

第１著者名\*　第２著者名\*\*　第３著者名\*\*\*,†

First Author Name\*, Second Author Name\*\* and Third Author Name\*\*\*,†

\*〇〇大学〇〇学部〇〇学科

 Department of Geology, Faculty of Science, XXX University, Wakkanai 097-0000, Japan

\*\*産業技術研究所〇〇センター

 Center for XXXX, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Tsukuba 305-8567, Japan

\*\*\* 〇〇大学〇〇学部〇〇科

 Department of XXXX, Faculty of XXXX, XXXX University, XXXX 000-0000, Japan

† 現在：〇〇〇〇〇株式会社

 Present address: XXXX, XXXX Co., Ltd., XXXX, Tokyo 105-0000, Japan

Corresponding author: xxxxi@xxxx.xxx.ac.jp

Keywords: stress, magma pressure, mineral vein, tectonics, directional statistics, ore vein

(注釈　著者数が多い場合，所属識別のために著者名の右肩に付ける記号を\*1，\*2 のように番号付きにしてもよい．なお，組版規則では，右肩に付ける記号として，\*で足りなければ†，それでも足りなければ‡，§，‖，¶ を順次使うことになっている．)

**Abstract**

xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx xxx xxxx xxx xxx. (300words)

要　　旨

　日本語要旨を400文字以内で作成してください．2023年11月より，レイアウトが変更になり，論文冒頭に「要旨」を掲載しています．〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇（400文字以内）

はじめに

原稿の作成には，「地質学雑誌投稿編集出版規則」に沿って，なるべくこのテンプレートを利用すること．このテンプレートを使わない場合も，編集の便宜のために，明朝系フォントで1ページ30行，1行40文字とし，行番号とページ番号を付けた原稿とすること．同規則に盛り込まれていない原稿作成要領を，以下で説明する．

ページ数の予測法

論説・総説・ノートなど，原稿の種類ごとに最大ページ数が決められているので，印刷されたときのページ数を，次の要領で予測してから投稿すること．地質学雑誌は，刷り上がり１ページを全て文字だけで埋めた場合2754文字となる．「はじめに」から文献リストの終わりまでの文字数を*N*，図表が占める分を*K*とすると，刷り上がりページ数を，

|  |  |
| --- | --- |
| $$M≈N/2754+K+1$$ | (1) |

という式で見積もることができる．最後に１を加えているのは，タイトル・著者名・所属・和英要旨などの分である．図表の分 *K* は，次のように評価する．まず，図表が版面（170mm×240mm）のうちどれだけの割合を占めるか，図表それぞれで見積もり積算する．版面は2段組で，１段は80mmの幅である．片段に収まる幅か否か，図表をデザインする段階で考えること．幅80～120mmのものは，図表の右下側面にキャプションが組まれる．キャプションの文字量により誤差はあるが，例えば，キャプションを含めて80×100 mmの図は約0.25，120×120 mmの図は約0.5，170×120 mmの図は約0.5と見積もる．英文の場合，編集委員会では第(1)式の代わりに，$M≈0.6N/2754+K+1$ という式を使っている．

　Microsoft Wordで厳密に1行40文字1ページ30行に設定するのは困難だが，このテンプレートでは，ほぼそのようになっている．文字数の見積もりを容易にするため，ページ番号と行番号を表示している（行番号は，Wordの機能を使って印字している）．

Fig 1

　なお，Wordで式(1)のような別行立て(display style)の数式を書くときには，作表機能を使って，1行2列の表を入力する．そうすると，数式を中央に置き，なおかつ，式番号を右端に置くことができる．数式については，「数式の書き方方に関する細則」を参照．

タイトルページ

１．タイトル

メインタイトルとサブタイトルの区切りには，英語ではコロンを置き，サブタイトルの冒頭を大文字する．日本語でもコロンをなるべく使うこと．

サブタイトルの前後に全角ダッシュを付ける，次のようなスタイルは避けたほうがよい．

〇〇県○○○○地域の古生界の○○と堆積環境

―〇〇〇〇〇の砂と礫組成を中心として―

こうした場合，メインタイトルの終端で改行されることが期待されているが，雑誌掲載時にタイトルあるいはサブタイトルのどこで改行されるかは，誌面のデザインに依存するのであって，著者の思い通りにはならない．文献リストや文献データベースに掲げられたときの表示では，なおさらである．結果として，

○○県○○○○地域の古生界の○○と堆積環境―〇〇〇〇〇〇〇の砂と礫組成を中心として―

というような見苦しい表示になるおそれがある．

２．著者所属

著者所属の英語表記は簡潔にしながらも，郵便が届く程度の情報量を盛り込むこと．このテンプレートの冒頭にあるように，日本語表記は簡潔でよい．

本文

１．約物

句読点・疑問符・括弧など，発音はされないが文や句に特別の意味を持たせる記号を，（punctuation marks）という．また，活字を組んで紙面を構成することを，組版という．英文組版ではどんな場合にどの約物を使うか，厳密な決まりがある．図表は著者が英文組み版規則に沿って組まなければならない．詳しくは『Chicago Manual of Style』などを参照すること．

投稿原稿にしばしば見られる間違えについてしるす．まず，数値の範囲を示す場合，日本語では波ダッシュ（～）が使われることが多いが，英文の要旨やキャプションでは，半角ダッシュ（二分ダッシュともいう；英語ではn-dash）を使う．例えば「10–20 m」という具合である．この場合にハイフンを使ってはならない．半角ダッシュは負号とも異なっている．半角ダッシュと負号を並べると，それぞれ – − である．後者は正符号 + の横棒と同じ高さに印字される．日本語の本文中では，波ダッシュで範囲を表してよい．ただし引用文献リストでは，ページの範囲を半角ダッシュとする（文献リストは印刷会社が活字を組むので，投稿原稿ではハイフンで代用してもよい）．

半角ダッシュなどの特殊文字は，コンピュータのOSに付属した文字コード表などで選択し，原稿に記入すればよい．Microsoft Wordの場合は，Altキーを押しながらIとタイプし，次いでSをタイプするとこのパレットが現れる．特定の文字を選択するときには，その文字のUnicodeを参照すればよい．たとえば半角ダッシュのUnicodeは 2013である．約物のUnicodeは，インターネット上で検索すれば分かる．

次に，地図に緯度経度を示す場合である．北緯35度の場合，35° Nであって，N35°ではない．度の記号「°」とNのあいだにはスペースを置く．また，35° 33′ 39″ N というように，分や秒を付すときにはアポストロフィ（‘）を使わず，プライムとダブルプライムを使うこと．それらのUnicodeはそれぞれ，2032と2033である．度の記号「°」とともに，これらは半角文字である．

２．文献リスト

　文献リストの書式については，まず，「地質学雑誌投稿編集出版規則」を参照すること．また，頻出する雑誌名については，地質学雑誌のホームページ http://www.geosociety.jp/publication/content0054.html をみること．

　投稿原稿の文献リスト欄には，欧文誌名略記の間違いがおおい．次のウェブサイトを参考すること．ただし，近年の多くの国際誌とは異なり，地質学雑誌ではJapanを*Jpn*.とはせず*Japan*のまま，Journalは*J.*とする．

・コロンビア大図書館 http://woodward.library.ubc.ca/research-help/journal-abbreviations/

・カリフォルニア工科大図書館 https://www.library.caltech.edu/journal-title-abbreviations

・Genamics JournalSeek http://www.journalseek.net/

・CAS (Chemical Abstracts Service) Source Index http://cassi.cas.org/search.jsp

また，本誌のホームページにある次の記入例を参考すること：

<http://www.geosociety.jp/uploads/fckeditor//journal/ryakki.pdf>

・地質学雑誌における古生物記載法

・鉱物名などの略号

図表について

１．図のデザイン

　地質学雑誌では，1ページが2段組で印刷されることを考慮して，図をデザインすること．図は1段の幅または2段分の幅を占める．それぞれ8cmと17cmの幅で．高さは最大で24cm．図の横幅が，それらの9割程度の幅になるようにデザインすると，バランスがよい．フォントは原寸大で美しく見えるようにデザインされているので，印刷されたときのサイズで図を作成するのがよい．

図中の文字は英語が基本である．文字サイズは最小でも7ポイント以上にすること．添え字が図中にあるなら，添え字が6ポイント以下にならないようにすること．　図中に数式を入れる場合は，「数式の書き方方に関する細則」を参考にすること．

北を表すのは真北・磁北，地図上の北と3種類あるが，通常論文に掲載される程度の縮尺では真北である．この場合，方位を表す矢印は左右対称の図柄で示す．

他人の論文の図を引用するときには，「掲載雑誌の出版社または著者に承諾を得る」とことが原則．編集委員会としては，当該の図表に引用に関する手続きは投稿者が責任をもってクリアしている前提で作業を進める．図表の引用に際しては，「Written permission from the copyright holder」が必要かどうかよく調べてこと．

著者プロフィールに載せる顔写真は，縦2.5cm×横2cmの大きさのモノクロ写真である．そのサイズの画像ファイルに著者名が識別しやすいファイル名をつけて原稿に添付すること．

２．表のデザイン

　表は印刷会社が活字を組む対象ではなく，著者が提出したままが印刷される．したがって，著者が組み版規則を理解した上で，表を作成する必要がある．表の中は英語表記が基本なので，詳しくは『Chicago Manual of Style』や英語論文の書き方に関する書籍を参照すること．

　表中では，Times系のフォントを使う．HelveticaやArialなどSan-serif系のフォントでは，I（大文字のi）とl（小文字のL）と1（算用数字）が識別しにくいためである．本文中では印刷会社が正しい負号（マイナス記号）の活字を選んでくれるが，表中の負号は著者が正しく選ぶ必要がある．誤ってハイフンを使った原稿がしばしばある．負号のUnicodeは2212番である．コンピュータの種類によって負号の入力法が異なるが，OS付属の文字コード表などで，Unicodeを手がかりにして入力すること．

付録A：××××××

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

Fig A1

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

謝 辞

　〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

文 献

〇〇〇〇, 1980, 英訳は，日本語の後にまとめて記してください. **81**, 1‒56. ［XXXX, X., 1980, *XXXXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX XXX*. **81**, 1‒56.］

〇〇〇〇, 1960. 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇, 〇〇〇出版, 211p.［XXXX, X., 1960. *XXX XXX XXXX XXX XXX XX*\*, XXX Publ., 211p.］

XXXXX，〇〇〇〇訳, 1981, 〇〇〇〇，〇〇書店, 244p.［XXXX, translated by 〇〇〇〇, 1981, *XXX XXX XX*，〇〇〇 Shoten, 244p.］

\* English translation from the original written in Japanese.

著者プロフィール

地質花子　〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻助教．05年 〇〇大学〇〇学部卒，10年 〇〇大学大学院〇〇学研究科博士後期課程修了（〇〇学博士），10年 学術振興会特別研究員，12年 〇〇研究所研究員，14年から現職．研究内容：〇〇地域の層序および地学教育，特に〇〇による〇〇の解明．本研究では，地質調査・総括・原稿執筆を担当．E-mail: xxx@xxx.xxx.ac.jp，URL: www.xxx.ac.jp/xxx/xxx.html．

地質太郎　〇〇株式会社〇〇部．98年 〇〇大学〇〇学部卒，00年〇〇大学大学院〇〇学院博士前期課程課程修了，00年から現職．研究内容：〇〇化石による古環境変動の解明．本研究では，〇〇化石の採取・鑑定・解釈を担当．E-mail: xxx@xxx.xxx.xx.jp，URL: www.xxx.co.jp/xxx/xxx.html．

地質次郎　研究内容：〇〇化石による古環境変動の解明．

柱

〇〇〇〇〇の地質（30文字以内）

（誌面の偶数ページの上部には著者名が，奇数ページの上部にはタイトルが略記される．後者のことを柱と呼ぶ．）

**Figure and Table Captions**

**Fig. 1**. XXX XXXXXXXX XXX XXXXXXXXX XXX XXXXXXXX XXX XXXXXXXXX XXX XXXXXXXX XXX XXXXXXXXX（日本語説明文の併記も可）.

**Fig. 2**. XXX XXXXXXXX XXX XXXXXXXXX XXX XXXXXXXX XXX XXXXXXXXX XXX XXXXXXXX XXX XXXXXXXXX

**Table 1**. XXX XXX XXXXXXXX XXX XXXXXXXXX XXX XXXXXXXX XXX XXXXXXXXX XXX XXXXXXX